

滑川市立博物館

なめりかわ～災害の記憶～

開催期間：2019年7月20日（土）～2019年9月8日（日）



【企画展の内容・目的】

- 富山湾に面し、東は早月川、南西に郷川と上市川が流れる滑川市は、古くから浪害や水害をはじめとした数々の災害に見舞われてきました。他にも、強風被害をもたらすだけでなく火災を拡大させるフェーン現象、雪国として避けることのできない大雪など、さまざまな災害が現在の滑川市域で起きてきたことを改めて紹介しました。
- シンポジウムや工作体験、現地見学会をはじめとした多くの関連事業を展開しました。滑川で起きた災害を知り、今後どのような災害が起こりうるのか、また万が一災害が起きたときに取るべき行動といった点を学びながら、海・川・山に囲まれた地域の特色も知っていただきました。
- 体験した災害の話などを来場者が自由に書けるシートを用意しました。展示物周辺に自由に貼り付けられるようにし、災害体験・伝承を風化させることなく広く共有できる場を設けました。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2019年7月20日（土）～2019年9月8日（日）
- 開催場所：滑川市立博物館 企画展示室1、第2常設展示室
- 入場者数：1,053人



現在の滑川市域に被害をもたらした水害、火災、地震、高波、風雪害などを5章構成で紹介しました。写真、古文書、絵図、新聞をはじめとした約200点の資料から、これまで起きてきた災害や今後も起こりうる災害を知っていただき、先人たちが自然とどのように向き合ってきたかを知ることで、災害を「正しく恐れる」重要性を感じていただきました。

写真資料はできる限り、現在の同じ場所の写真を並べて紹介することで、この場所でこのような被害があった、ということを理解しやすくしました。

各章冒頭では、災害史研究者、気象予報士、防災士によるそれぞれの視点からのワンポイントアドバイスを紹介し、章末には富山県内に顕著な被害を与えたときの天気図や気象予報士による一問一答を用意し、自然災害への備えに対しての一助となるように心がけました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



1章『昭和44年8月豪雨（44災）』と市域を襲った洪水害』のなかで、海と人々との関係性を紹介しました。水害後は海に大量の漂流物、浜には漂着物が発生します。このようなとき富山湾沿岸では漁師たちを中心に「流木拾い」という習俗がありました。通常の漁を行っているよりも数々の漂流物を拾い集める方が稼ぎが良かったため、争うように船を出していたそうです。このような水害後の社会の様子を報じた新聞資料を紹介することで、自然の脅威にさらされながらもたくましく生きてきた先人たちの暮らしの一部も紹介することができました。現在、「流木拾い」の体験者は少なくなっているようですが、「昔していたことを思い出した」という声もあり、一種の回想法のような役割も果たせたように思われます。



4章「浪害～寄り回り波と滑川～」では、冒頭でかつての滑川の海岸について知ることができる写真資料を取り上げ、海岸浸食による浜の消滅によって変貌を遂げた景観や失われた祭礼等の紹介を導入としました。過去から現代の浪害について、江戸時代の古文書、明治時代以降から現代までは行政文書・新聞・写真といった資料から振り返るとともに、災害復興の移住等によって新たに形成された町のこと、波除塀といわれる当地独特の浪害対策等について紹介することで、海岸沿いで暮らしてきた先人たちの苦労や工夫について思いを馳せるものとなりました。また、江戸時代と明治時代前期の絵図、墨書のある江戸時代の「波除御用石」といった出土遺物から、かつての防波施設について初めて明示することができました。さらに今回の調査で見つかった100年以上前の高波被害の写真をはじめとした写真資料は、ただ展示するだけでなく撮影場所を明らかにして現況写真と比較することで、自然の猛威について改めて感じる機会を提供することができたと思われます。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

【来館者の声】

- 古文書などに基づくデータもあり、滑川市の災害が歴史的によくわかった。子どもたちにも保護者とゆっくり見に来てほしいと思った。大した展示である。
- 現在と対比させた写真が興味深かった。
- 滑川を離れて45年。知らなかったことがたくさんあって、本当にためになることばかりだった。
- 今回の企画はすばらしかった。いろんな資料をそろえる大変さを感じた。
- 50年前のことを思い出すことができた。
- 災害が多かったのだなと思った。
- さまざまな物語があると思った。
- 現在の滑川からは想像ができないことばかりで驚いた。

2. 関連事業の内容

■シンポジウム「滑川の災害を知り、備える」

【開催日時】2019年7月28日（日） 14:00～16:30

【開催場所】滑川市立博物館 ガイダンスルーム

【参加者数】シンポジウム60名

展示解説会21名

【実施内容・目的】

- 過去に滑川市域や富山県で起きた災害、今後起こりうる災害、災害への備えや万が一災害が起きたときに身を守る方法などについて、災害史研究者、気象予報士、防災士のそれぞれの立場からお話いただきました。
- シンポジウムの前には、担当学芸員による展示解説も行いました。



災害史研究者の高野靖彦さんからは過去の災害を学び、知ることが現在の防災・減災につながるということ、気象予報士の木地智美さんは富山県で起こりうる災害や近年の温暖化に伴う気候変動から予測される災害について、防災士の脇坂静也さんからは万が一に備えた日々の心がけ、災害が起きてしまったときの行動等についてお話いただきました。立場の異なる3名の専門家からのお話によって、来場者はさまざまな災害や防災に対する意識が高まったようです。

【来館者の声】

- 滑川で発生した災害を中心に、歴史的に、そして具体的な説明を受け、自分の勉強不足を痛感した。今日の展示解説やシンポジウムの内容を孫たちに伝えていくことの必要性を強く感じた。
- 3名の方の話が分かりやすく大変よかった。今後も定期的に行って欲しい。
- 大変有意義で参考になる話ばかりでよかった。もっと多くの人に知ってもらえる機会があればよい。
- 「過去の災害を知り、正しく恐れましょう」と言われたことに強く同意した。
- 他県に災害が起きると防災時の対応を考えるものの、実際には準備ができていない。考えさせられた。
- 話を聞いて改めて自分の命は自らが守ることを考えさせられ、身近なことに気を配っていきたいと思った。
- 災害に遭ったらどうしよう考えることはあるが、どうも他人事のように感じている。今日から真剣に考えようと思った。

■工作体験！防災グッズを作ろう！！

【開催日時】 2019年8月3日（土）、4日（日）13:00～15:00

【開催場所】 滑川市立博物館 ガイダンスルーム

【参加者数】 47名（2日間の合計）

【実施内容・目的】

- 身近にある段ボールや新聞紙を使った防災グッズの工作体験を通じて、災害や防災への意識を高めることを目的としました。



滑川防災士連絡協議会のご協力のもと実施しました。災害時や避難所でのトイレ問題のお話を聞いてから、段ボールを使った簡易トイレ作り、新聞紙を使ったスリッパや食器作りを体験しました。参加者のみなさんは、楽しみながら防災への意識を高めることができたようで、満足度の高い体験会となりました。

【来館者の声】

- 災害時の備えは、どうしても食料のことばかり気になっていたが、トイレ問題も忘れてはならない。今日作ったトイレは家で大事に保管して、いざというときに慌てないようにしたい。
- 身の回りにある段ボールで簡易トイレの作り方を覚えたので、いつか災害に遭ったときに役立てたいと思う。避難所や家庭で災害時のトイレの重要性が理解できた。
- 防災グッズの中にトイレという考えがなかったので、今日の説明を聞いて、家でも備えておこうと思った。子どもも楽しめる内容だったのでよかった。
- 災害時にならないと分からないことだったが、分かりやすく、自分でも備えておこうと思った。
- トイレの重要性が非常に分かりやすく伝わった。今後の防災の備えに生かしていきたい。
- トイレをつくったのがたのしかった。スリッパをつくるのがむずかしかった。

■滑川の災害・防災に関わる現地見学会

【開催日時】2019年8月11日（日）、31日（土）13:00～16:00

【開催場所】滑川市立博物館、滑川市内

【参加者数】10名（2日間の合計）

【実施内容・目的】

- 滑川市内に残る石碑、信仰、治水・防波施設といったものの見学を通じて、先人が災害と闘ってきた痕跡、また自然とどのように共生し、畏敬の念を抱いてきたかを知る機会を提供することを目的としました。
- 現地見学に先立ち、展示解説（事前学習）を行うことで、実地での学習効果を高めるよう配慮しました。



富山湾独特の災害である寄り回り波が、滑川の街区や景観の形成にも深く関係していること、古くから残る町並みの中に防火や高波への対策が施されていること、先人たちの苦勞から現在まで続く防災への取り組みというものを実地を訪れて実感していただきました。

【来館者の声】

- 高波が発生したときに、どのように対応するべきか、実際に考えることができた。
- たくさんの恵みをもたらしてくれる海だが、一度災害が起きると重大な被害をもたらすということがよくわかった。
- 寄り回り波や護岸、富山湾についての説明もよく、展示内容もわかりやすかった。
- 寄り回り波の怖さ、防ぐことの大切さを感じた。
- 災害に立ち向かった先人の知恵を感じることができた。
- 穏やかな海が突然牙をむく。やっぱり昔にこんなことがあったのかと驚いた。

■展示解説会

【開催日時】 2019年7月20日（土）、8月10日（土）、25日（日）、
9月8日（日） 13：30～14：30

【開催場所】 滑川市立博物館 展示会場内

【参加者数】 49名（4日間の合計）

※別途団体向けの展示解説会（計46名）あり

【実施内容・目的】

- 展示について担当学芸員が、見どころや資料の歴史的価値などの解説を行いました。



当日参加した来場者の方の居住地や興味・関心のポイントを聞いた上で、話す内容を一部変えながら解説したことで、当時のことを思い出したり、地域の防災について関心が高まったりしたという声もあがりました。展示解説会に参加したことで、富山県は「災害が少ない」のではなく、「近年、災害が少ない」ということを理解してもらえたようでした。

【来館者の声】

- 展示解説が分かりやすかったこと、江戸時代からの古文書が残っていること、内容をしっかり読んでいることに驚いた。
- 説明が分かりやすかった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■「みなさんの災害についての記憶・経験を教えてください」シート

【開催日時】2019年7月20日（土）～9月8日（日）

【開催場所】滑川市立博物館 展示会場内

【参加者数】36枚

【実施内容・目的】

- 観覧者が体験した（伝え聞いている）災害の話などを自由に書けるシートを用意し、展示物周辺に自由に貼り付けられるようにしました。
- 個々が持つ災害の記憶・体験・伝承等を風化させることなく、広く観覧者（市民）と共有する機会とし、災害について改めて考える場となることを目的としました。



観覧者自身が体験した、または両親・祖父母・親族等から伝え聞いている災害の話を広く紹介できる場を作ることによって、【博物館⇒観覧者（市民）】という方向ではなく、【観覧者（市民）⇒博物館】、【観覧者（市民）⇒観覧者（市民）】といった双方向・多方向性を持たした参加型の展示・発信を实践することができたと思います。また、撮影地点の詳細が分からなかった写真について、このシートで情報提供を受け、場所が特定できたという事例もありました。

【来館者の声】

- 市民の方々の経験を書いてもらって貼るといのはとてもよかったと思う。どれも興味深く拝読した。撮影地点が判明したのがすごい！！

■滑川の災害・防災クイズ（小中学生向けワークシート）

【開催日時】 2019年7月20日（土）～9月8日（日）

【開催場所】 滑川市立博物館 展示会場内

【参加者数】 133人

【実施内容・目的】

- クイズを解くことで、滑川の災害について小中学生が学び、知ることができるようにしました。展示内容を理解するためのワークシートの役割を持たせました。



子どもたちが楽しみながら広く災害を学ぶことで、滑川で起きた（起こりうる）災害や防災について理解できるように心がけました。また保護者も協力することで、親子で災害に関する知識、滑川の気象災害のことなどを共有することができたと思います。挑戦した全員に参加賞として、滑川市イメージアップキャラクター「キラリン」のオリジナル缶バッジをプレゼントしました。

【来館者の声】

○クイズがあったことがよかった。

■写真パネル展 滑川の消防車 いま むかし

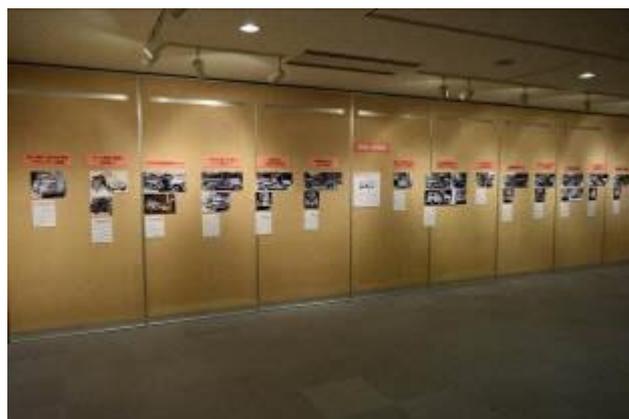
【開催日時】2019年7月20日（土）～9月8日（日）

【開催場所】滑川市立博物館 企画展示室2

【参加者数】1,013名

【実施内容・目的】

- 滑川消防署所蔵の消防関係車両アルバムには旧滑川町、消防署や消防団に配属された殆どの車両が所収されていたことから、災害時の「働く車」の代表格である消防車両85台約200枚の写真を紹介し、低年齢層向けに海に面した地域の災害について親子で話す機会作りの場としました。



「災害」というテーマだけでは興味・関心を持たない子どもがいることも想起されたため、博物館に足を運んでもらう一つのきっかけとなる企画として「滑川の消防車 いま むかし」を同時開催しました。古い消防車の写真は各自治体にも残されていますが、第一号から現代までのほぼすべての車両が一堂に見られる機会は非常に珍しいものです。クラシックカーをベースにしたレトロな消防車から最新鋭の消防車へ、車両デザインや装備の変遷を通じて、各時代に思いを馳せながら楽しんで頂き、海に面した地域の災害について考える機会としました。子どもだけでなく、自動車好きの大人の方々も多く訪れました。

【来館者の声】

- 消防車の移り変わりを知れてよかった。
- 消防車のコーナーが印象に残った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■消防車がやってくる！！

【開催日時】 2019年8月17日（土） 10：00～11：45

【開催場所】 滑川市立博物館 駐車場

【参加者数】 41名

【実施内容・目的】

- 滑川消防署から、3台の現役車両に来ていただき、はしご車のバケットへの搭乗体験、救助工作車の装備の見学、それぞれの車両への乗車体験、子ども用消防服の着用などを体験していただきました。参加者は記念写真を撮影するなど存分に楽しむとともに、低年齢層向けに海に面した地域の災害について親子で話す機会作りの場としました。



写真パネル展「滑川の消防車 いま むかし」の開催に合わせ、滑川消防署から現在活躍中のポンプ車・はしご車・救助工作車の3台に来てもらいました。参加した子どもたちは乗車体験などをした後、「滑川の消防車 いま むかし」の見学やぬりえコーナーで楽しんでいました。

■消防車ぬりえコーナー

【開催日時】2019年7月20日（土）～9月8日（日）

【開催場所】滑川市立博物館 企画展示室2

【参加者数】163名

【実施内容・目的】

- 「滑川の消防車 いま むかし」の展示会場内に設けたコーナーで、4種類のぬりえに挑戦してもらいました。子供たちに人気の消防車のぬりえを通じて、海に面した地域の災害について親子で話す機会作りの場としました。



1920～40年代、1950～70年代、1970～80年代、2010年代の特徴ある4つの時代の消防車のぬりえを用意し、参加者には好きな色で自分だけのオリジナル消防車を描いてもらいました。ぬりえは展示会場に飾り、挑戦していただいた方には消防車のオリジナル缶バッジをプレゼントしました。子どもだけでなく、大人の方が挑戦される姿も散見されました。

【事業全体のまとめ】

- ◇「海の学び ミュージアムサポート」事業の活用により、展覧会の規模を拡大することができました。規模の拡大に伴い、県内外からの資料借用（指定文化財を含む）、市内からの大型資料の借用なども可能となり、単に災害を紹介するだけではなく、先人たちの防災への取り組みや祈りの形といったものまで紹介することが可能になりました。
- ◇災害史研究者・気象予報士・防災士の協力を得られたことで、単に過去に起きた災害を振り返るだけにとどまらず、過去の被害を具体的に知ることによって、現在～未来にどのように対処していくか、考えていくかといった視点で防災に対する提起ができたのではないかと思います。
- ◇「海の学び」という要素を組み込み、また意識することで、日本海を通過する低気圧というものが富山県内に被害をもたらすことが多いということを示すことができたのではないかと思います。
- ◇数多くの関連イベントを展開できたのも、本サポート事業によるものです。当館で会期を通じて参加賞がある子ども向けイベントを開催したのは初めての試みでした。このこともあってか、これまでの企画展より親子連れの姿が目立ちました。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 富山県東部消防組合滑川消防署	展示協力（資料の提供）、関連イベントへの協力
2. 滑川防災士連絡協議会	関連イベントへの協力
3. 石川県立図書館	展示協力（資料の借用）
4. 金沢市立玉川図書館近世史料館	展示協力（資料の借用）
5. 富山県公文書館	展示協力（資料の借用）
6. 富山県立図書館	展示協力（資料の借用）
7. 滑川市立図書館	展示協力（資料の借用）
8. 高月東部町内会	防災避難訓練への講師派遣

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 『高速有鉛デラックス』 Vol.70	展覧会開催告知、2019/6/26
2. 『北日本新聞』	「高波の悲惨さ伝える 市立博物館きょうから企画展 1916年の写真公開」、2019/7/20
3. 「富山シティエフエム」 (コミュニティ放送)	電話インタビュー「『なめりかわ～災害の記憶～』について聞く」、2019/7/25
4. 『広報なめりかわ』	「『災害が少ない富山県』なんて本当?」、2019/8/1
5. 『北日本新聞』	「滑川・中新川水害『44 災』から 50 年 自然の怖さ思い知った 被災者や元消防署員警鐘 市立博物館で企画展」、2019/8/3
6. 「Net3」(ケーブルテレビ)	「昭和 44 年 8 月豪雨から 50 年 滑川市立博物館企画展『なめりかわ～災害の記憶～』」、2019/8/5～11
7. 「Net3」(ケーブルテレビ)	「昭和 44 年 8 月豪雨から 50 年 滑川の災害を知る 7 月 28 日 『なめりかわ～災害の記憶～』 展示解説会」、「3 人のパネリストが専門分野から防災を語る」 7 月 28 日 『なめりかわ～災害の記憶～』 シンポジウム、2019/8/12～18
8. 『北陸中日新聞』	「集中豪雨から 50 年 滑川の災害史紹介 市博物館写真や新聞記事」、2019/8/12
9. 『北日本新聞』	「歴代消防車 写真で紹介 市立博物館で企画展 第 1 号から 85 台 200 枚」、2019/8/14
10. 『高速有鉛デラックス』 Vol.71	展覧会開催告知、2019/8/26
11. チューリップテレビ	「” 昭和 44 年豪雨” 半世紀前の水害に学ぶ」、2019/9/4
12. 『北日本新聞』	「『44 災』 忘れないで」、2019/9/8

以上